

令和5年度 第3回沖縄県観光振興基金検討委員会の議事概要

- 1 開催日時 令和5年12月22日(金) 10:00~12:00
- 2 開催場所 沖縄県教職員共済会館八汐荘 屋良ホールB
- 3 出席委員 別紙のとおり
- 4 議 事 (1) 令和6年度当初予算の沖縄県観光振興基金活用事業(案)に関する委員意見の検討状況について
(2) 令和6年度当初予算の沖縄県観光振興基金活用事業(案)(追加分)について

5 意見交換

沖縄県観光振興基金活用事業の効果検証、その他基金活用に関して、委員から次のような発言があった

- (1) 令和6年度当初予算の沖縄県観光振興基金活用事業(案)に関する委員意見の検討状況について

①那覇空港観光2次交通対策事業

- バスについてもOKICA以外の交通系カードを使えるようになることよ。特に先払いの場合にカードが使えないと海外観光客などが困っているのが見受けられる。
- 乗り換えアプリ等は、高齢者などアプリを活用していない人への認知度が不足しており、それゆえ課題が抽出できていない部分がある。課題解決のためにもう一步踏み込んだアイデアがあればと思う。
- ライドシェアが一部解禁になるなど、来年度以降状況が変化していくことが予想されるので、それにより那覇空港の状況にどのような変化が生じるのかデータを収集・整理し、今後事業として提案していただければと思う。

②災害時観光客避難支援事業

- 災害時にいかにして観光客が避難場所やそこまでの移動方法についての情報を得られるかが重要。季節によっては年配の方のグループも多く来られているので、スマホの使用が苦手なIT弱者も不便がない方法を考えていただければと思う。

③サステナブルツーリズム推進事業

- サステナブルとして実施している事業ばかりがクローズアップされ、実施できていない部分が見落とされている。ひとつの独立した事業として継続するようにお願いしたい。

④MICE 受入体制強化等事業

- MICE 需要を取り込むための広域連携について、他事業で実施している情報共有や連携だけでなく、MICE 案件を獲得していくための積極的な取組も必要である。

⑤しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業

- 各地区に伝統芸能があるが、他地区の伝統芸能を知る機会は少ない。令和5年度事業で実施されたしまじまの芸能祭は、地区同士の交流が出来た点が非常に良かった。今

後もブラッシュアップしながら継続してほしい。

- 青年会は全体的に減少傾向だが、増加している団体もある。本事業の文化相談支援員が全てを把握することは難しいと思うが、地域の団体を支援している人と連携し、課題や工夫、成功事例などを全県的にシェアするという視点も持ちながら事業を実施してほしい。

(2) 令和6年度当初予算の沖縄県観光振興基金活用事業（案）（追加分）について

① 沖縄の多様なソフトパワーを活用した映像作品等支援事業

- 1年目はシナリオの精査により、どの映画が事業目的に合致する映画となりうるのかを選定し、映像制作の支援に移行していった方がよいと思う。
- 補助を受けて映画を制作しても、商業ベースで事業が成り立つのか疑問。製作した映画をコンテンツとして活用することを想定しているのであれば、補助率もしくは上限金額の引き上げを検討してみてもどうか。
- 作品を選定する際には、県内の映像・映画関係者が審査員になることが想定されるが、県内には優秀な映像・映画関係者がいるので、彼らの応募を妨げないように配慮した選定のプロセスを作してほしい。
- 基金を活用した事業なので、もう少しお題を絞って募集・選定・採択していただきたい。

② 観光人材確保支援事業

- 学生向け合同説明会やインターンシップに注力することのほかに、民間や他県での人材確保の成功事例などを参考にしながら、プラスアルファの取組を追加して効果的に実施できるよう検討していただければと思う。
- 人材を募集する際に、奨学金の返済の一部補助等を行っている事業者がいる。奨学金の返済というのは学生や家族にとって負担となるので、そのような取組があれば目を向けてくれる機会が増えるのではないかな。

③ 空手ツーリズム受入体制構築事業

- 沖縄は空手発祥の地であり国内外での認知度が極めて高い。基金を活用して、観光と文化の両面において、空手の認知度の高さを戦略的に活かす本事業は重要だと考える。
- 空手愛好家だけでなく、空手ガイドの活用などにより空手に関心のあるライト層にも魅力を広げてほしい。
- 欧米や南米は家族連れで1週間以上滞在するため、需要は大きい。
- 来県してからのコンテンツがあまり知られておらず、海外の方は自ら情報を取りにいかねばいけないという状況なので、県から連盟などにプロモーションしてコンテンツの認知度を広め、来訪者を呼び込むことが必要。
- 空手の技術面を教えるインストラクターもさることながら、海外から訪れる方は空手の文化や人々の暮らしなど全般的に空手の魅力を伝えることのできるガイドを求めているので、広い視点を持った人材の育成に取り組んでほしい。

(3) その他

①北部テーマパーク関連

- オーバーツーリズムの懸念があるので、行政や県も目を向けて課題や対策などを検討する必要がある。対策会議などの運営費を基金から拠出することも考えてみてはどうか。
- 交通渋滞が発生するのは確実であるので、地元住民の苦情や議会での発言を受けてから対策に動くのではなく、発生を見越して段階的に対策を検討していただければと思う。
- 那覇から北部への交通手段として、富裕層であればプライベートジェットやヘリコプターの需要が増えてくるので、それを見越した様々な調整等が必要になるかと思う。

②ホエールウォッチングに関する事業

- 北部、中部、南部、奄美と各地域で独自の取組を実施しており、ザトウクジラの生態への配慮について足並みが揃っていない。観光と環境に配慮したサステナブルな旅行商品を作っていくという点で、いいモデルケースになると思う。

③観光施設の活用

- 水族館や首里城などの観光施設について、現在は土木建築部が都市公園という位置づけで管理しているが、観光の主要施設であり文化発信に有効的な施設でもあるので、関係部局とうまく連携して、活用方法や必要な事業などについて議論していただけるとありがたい。

④文化観光人材のプラットフォームづくり

- 文化観光という概念を持つ専門家が少ない。文化側が観光の目線、観光側が文化の目線を持ち、集団知で沖縄の文化観光を魅力的なものにしていくことが求められていると思うので、連携の機会や情報共有できるようなプラットフォームを作ってほしい。

⑤ツーリズムリテラシー

- 良い観光客になるためのリテラシーを県民が持つようになれば、良い観光とは何かを一緒に考えていける県民が増えていくことになるので、県民を育てていけるような中長期的な取組を検討していただければと思う。

沖縄県観光振興基金検討委員会 委員名簿

	種別		所属・職名	氏名	第3回 出欠
1	有識者(観光)		琉球大学国際地域創造学部 観光社会学研究室 教授	越智 正樹	○
2	有識者(環境)		琉球大学名誉教授	伊澤 雅子	×
3	観光関連団体	旅行業	(一社)日本旅行業協会 理事	東 良和	×
4	観光関連団体	宿泊	(一社)宿泊施設関連協会 沖縄支部副支部長	高倉 直久	○
5	観光関連団体	交通	(一社)沖縄県バス協会 専務理事	慶田 佳春	×
6	観光関連団体	観光施設	(一財)沖縄美ら島財団 専務理事	湧川 盛順	○
7	その他	文化	(同)琉球芸能大使館 代表	富田 めぐみ	○ (オンライン)
8	その他	スポーツ	名桜大学大学院 国際文化研究科 スポーツ健康学科 教授	平野 貴也	○ (オンライン)